

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

ク 検証結果<中学校> A中学校 第3学年 対象者数32名(うち、回答者数31名)

【検証の視点 I】「あなたのおよここ SAGA シート (自己肯定感チェックシート)」

生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったか。

【検証の視点 I-A: 「自分自身に関する自己肯定感」に関する項目】

【検証の視点 I-A-(a): 「自尊感情」に関する項目】

【検証の視点 I-A-(b): 「自己主張・自己決定」に関する項目】

キ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証内容と検証方法を見ることができます。

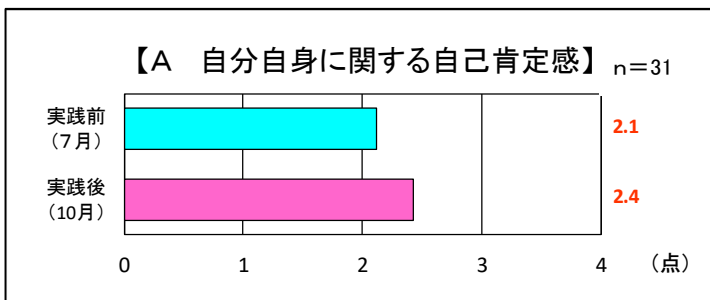


図1 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識の変化 (全体)

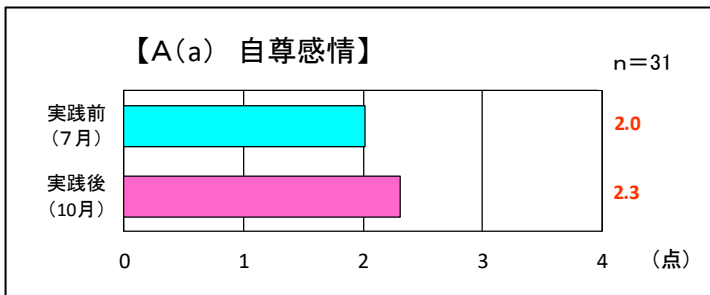


図2 生徒の「自尊感情」に関する意識の変化 (下位尺度)

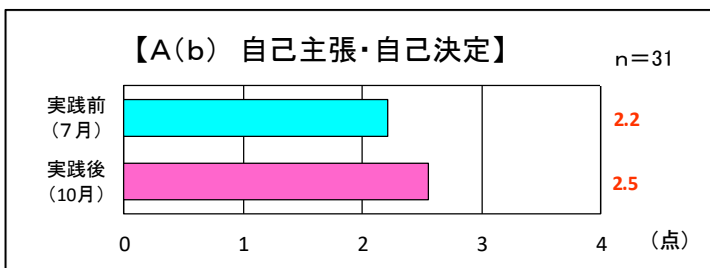


図3 生徒の「自己主張・自己決定」に関する意識の変化 (下位尺度)

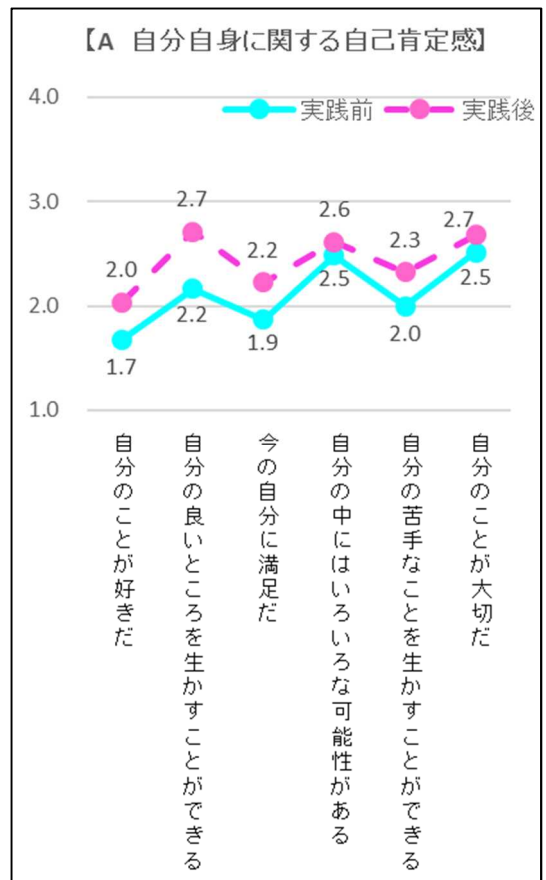


図4 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識の変化 (項目別)

○授業実践の前後で、全体では数値が 0.3 ポイント、下位尺度では「自尊感情」で 0.3 ポイント、「自己主張・自己決定」で 0.3 ポイント上がりました（前頁図 1～図 3）。項目別では、特に、「自分の良いところを生かすことができる」で 0.5 ポイント、「自分のことが好きだ」「今の自分に満足だ」「自分の苦手なことを生かすことができる」で 0.3 ポイント上がりました（前頁図 4）。生徒の振り返りシートには、「自分の知らなかった『強み』に気付くことができ、自信がついた」「自分の『強み』を大切にしていきたいと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、「自分自身に関する自己肯定感」を高めることができたと考えます。

- 【検証の視点 I-B：「友達との関係を通した自己肯定感」に関する項目】
- 【検証の視点 I-B-(a)：「関係性」に関する項目】
- 【検証の視点 I-B-(b)：「自分は価値のある人間」に関する項目】

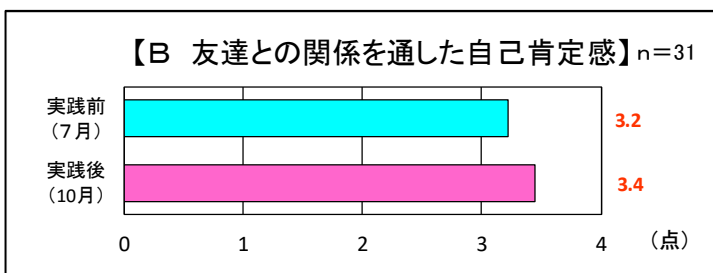


図 5 生徒の「友達との関係を通した自己肯定感」に関する意識の変化（全体）

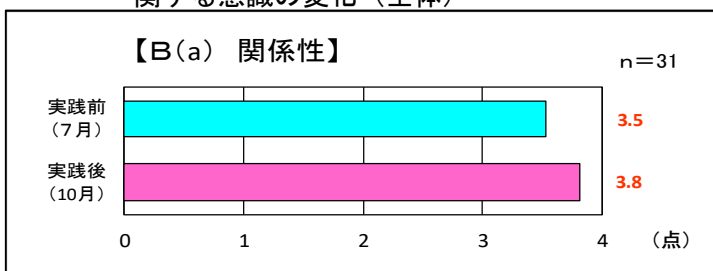


図 6 生徒の「関係性」に関する意識の変化（下位尺度）

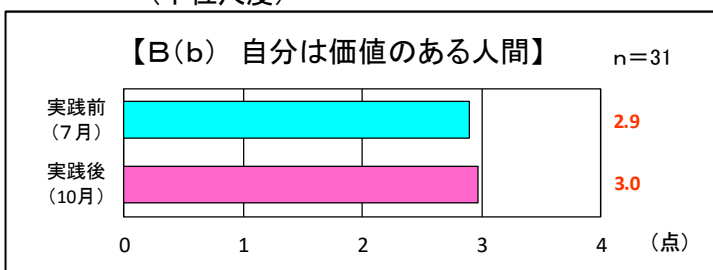


図 7 生徒の「自分は価値のある人間」に関する意識の変化（下位尺度）

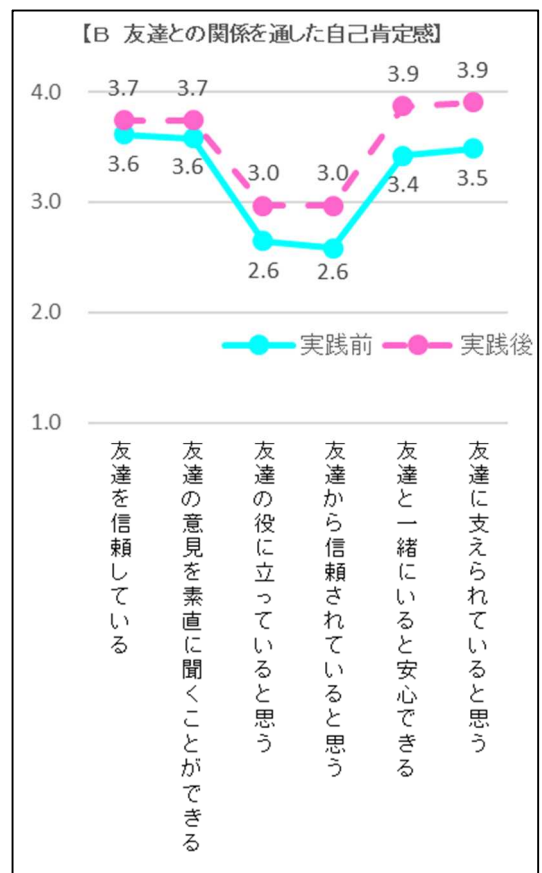


図 8 生徒の「友達との関係を通した自己肯定感」に関する意識の変化（項目別）

○授業実践の前後で、全体では数値が 0.2 ポイント、下位尺度では「関係性」で 0.3 ポイント、「自分は価値ある人間」で 0.1 ポイント上がりました（前頁図 5～図 7）。項目別では、「友達と一緒にいると安心できる」で 0.5 ポイント、「友達の役に立っていると思う」「友達から信頼されていると思う」「友

達に支えられていると思う」で0.4ポイント上がりました（前頁図8）。生徒の振り返りシートには、「みんなが、自分の『強み』を書いてくれて嬉しかった」「班のみんなの『強み』を書くことができた」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、「友達との関係を通じた自己肯定感」を高めることができたと考えます。

- ◎中学生の発達の段階は、他者との比較や他者からの評価などが大きく影響し、価値観や自分の可能性といった視点で自己肯定感を捉える特徴があります。生徒がもつ「強み」に着目した交流活動で互いに自他の「強み」を伝え合うことにより、自尊感情や友達との関係性等が高まり、どちらの数値も上昇したと考えます。以上のことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったと考えます。

【検証の視点Ⅱ】「がばいシート」

生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったか。

【検証の視点Ⅱ－A：学級の雰囲気】

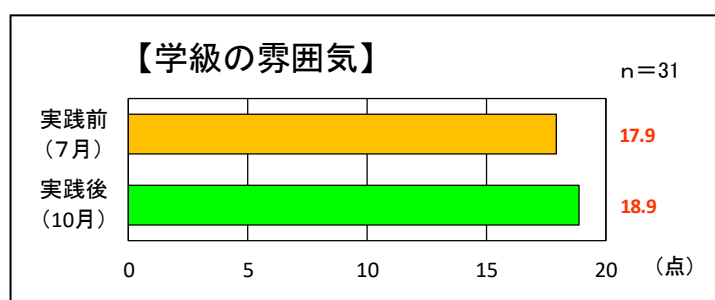


図9 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化（全体）

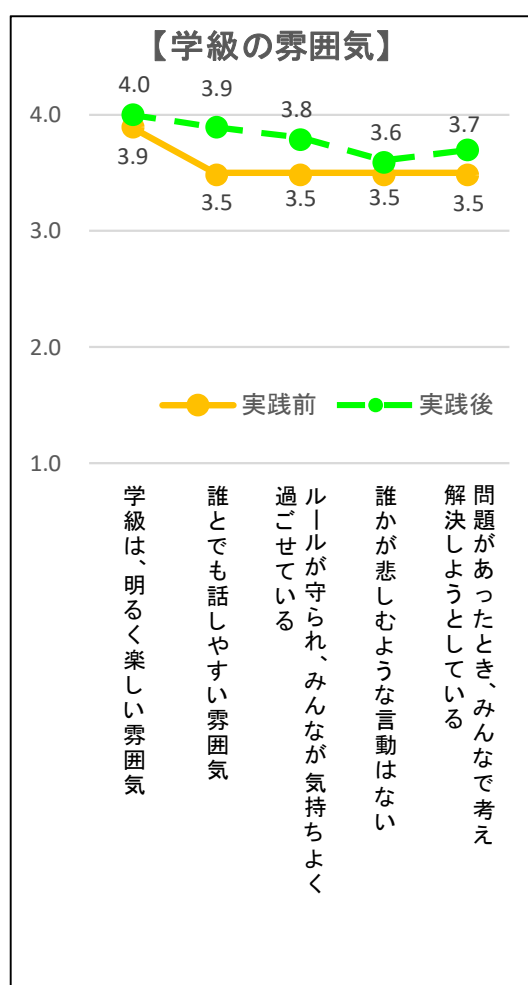


図10 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化（項目別）

○授業実践の前後で、全体では数値が1.0ポイント上がりました（前頁図9）。項目別では、「誰とも話しやすい雰囲気」で0.4ポイント、「ルールが守られ、みんなが気持ちよく過ごせている」で0.3ポイント上がりました（前頁図10）。生徒の振り返りシートには、「友達の『強み』を書くのが楽しかった」「自分の『強み』を発表するときに、みんなが最後まで聞いてくれた」という記述が多く見られました。また、日頃から生徒同士が交流する場面を設定し、互いに話せる雰囲気づくりを行ったり、交流活動のルール等を確認したりすることで、生徒は安心して自分の気持ちを表現することができ、「学級の雰囲気」の数値の上昇につながったと考えます。

【検証の視点Ⅱ-B：友達との関係】

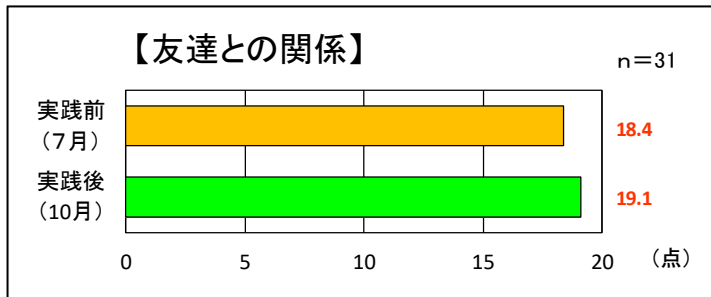


図 11 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化（全体）

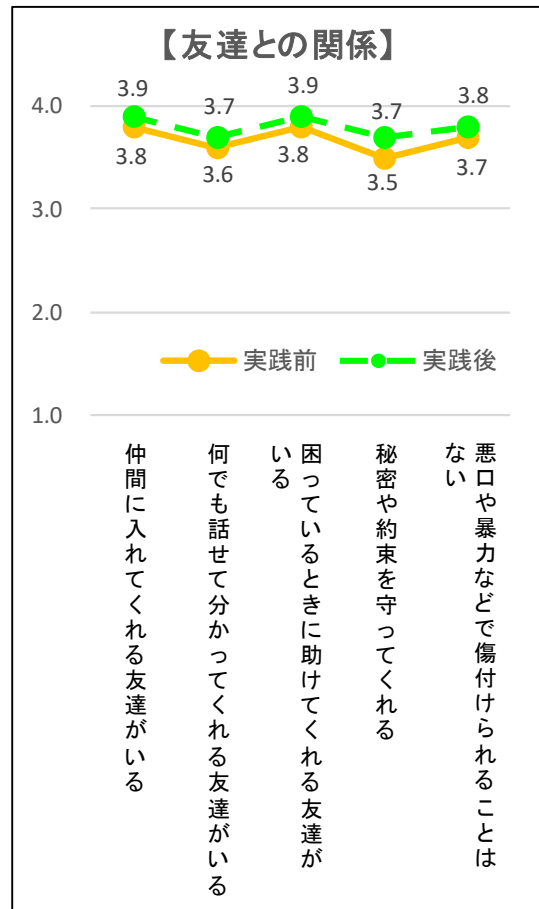


図 12 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化（項目別）

○授業実践の前後で、全体では数値が0.7ポイント上がりました（図11）。実践前の数値が高かったことから、学級における友達の関係は元々良好であったことが考えられます。項目別では、「秘密や約束を守ってくれる」で0.2ポイント上がりました（図12）。生徒の振り返りシートには、「3時間の授業で『強み』についての理解が深まったし、友達に伝えやすくなった」「みんなが自分の『強み』を考えてくれて嬉しかった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して生徒が互いに自他の「強み」を伝え合ったことや構成メンバーを変えて交流活動に参加したことにより、今後、学級における「友達との関係」が更に良くなっていくことが期待できると考えます。

◎生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、自分や友達の「強み」を伝え合うことで、互いにプラスのフィードバックを積み重ねることができ、学級の雰囲気や友達との関係を良好であると捉えることができたと考えます。以上のことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が、互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったと考えます。